

ライフミュージアムネットワーク2020

連続オープンデイスカッション

奥会津の方 の 周り

Life
Museum
Network
2020

福島県西部の山間地に広がる奥会津地方。豊かな自然環境は変化に富む景観と農産物を生み出し、自然に根ざしたくらしと文化を育んできました。また、只見川流域では川とともにくらしを営み、水力発電による首都圏へのエネルギー供給を支えてきたという歴史があります。奥会津を構成する5町村、三島町・柳津町・昭和村・只見町・金山町はそれぞれに何を大切に、コミュニティを築いてきたのでしょうか。各町村の自然、歴史、文化を伝えるミュージアム関係者が対話を重ねることで奥会津の共通性、個性、課題を見つめ、対話のリレーで大きな奥会津をめぐる。ぜひご参加ください。

8.8 (土) 14:00 ~ 15:30

第1回 文化の泉を掘る～三島町歴史文化基本構想について～
mishima 工人の館

9.19 (土) 16:00 ~ 18:00

第2回 清の眼 根っこの眼 それぞれの地域学
yanaiizu やないづ町立斎藤清美術館

主催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会

協力：三島町教育委員会、三島町生活工芸館、やないづ町立斎藤清美術館、昭和村、只見町プラセンター、金山町教育委員会

文化庁 令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

2020年8月8日(土) 14時~15時半

会場：工人の館(三島町大字名人諏訪ノ上395)

講師：矢澤源成氏(三島町長)

赤坂憲雄氏(学習院大学教授/元福島県立博物館長)

奥会津でいち早く策定された「三島町歴史文化基本構想」。携わったお二人をお招きし、その理念と意義、今後の展望をお聞きます。

文化の泉を掘る

～三島町歴史文化基本構想について～

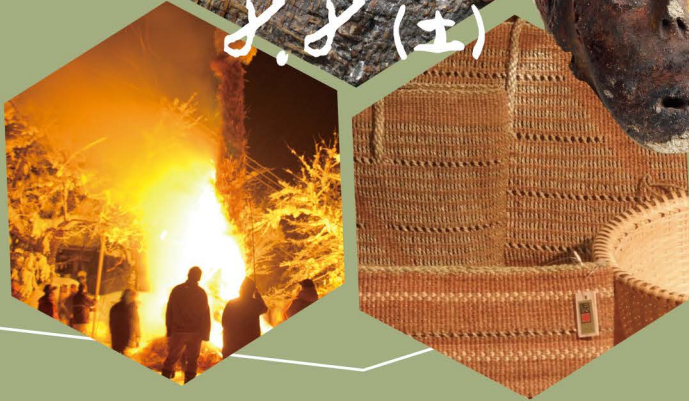
mishima
8.8(土)

矢澤源成

三島町長。東洋大学経済学部卒業。1976年三島町に入庁。町村合併担当課長、生涯学習課長を歴任し「三島町歴史文化基本構想」の策定にあたる。福島大学大学院に学び、教育長を経て、2015年に現職。三島町の歴史・民俗文化の保存・継承・活用をめぐる「三島スタイル」を構築。「足下の泉を掘れ」をキーワードに、地域の文化資源・生活文化を活かす町づくりを行う。

赤坂憲雄

民俗学者。東京大学文学部卒業。東北芸術工科大学教授、東北文化研究センター長、福島県立博物館長などを歴任。現在、学習院大学教授。1999年『東北学』を創刊。2011年以降、東北の被災地を歩き民俗、文化、アートなどの文脈で震災の記憶の記録の重要性を発信している。著書に、『3.11から考える「この国のかたち」-東北学を再建する』(新潮社)など多数。



ミュージアム学委員や研究者、地域の文化に携わる人々による既存・既知の地域文化のさらなる調査研究がもたらす新たな発見と、そこから見える柳津のこれらについて対話します。

2 清の眼 根っこの眼 それぞれの地域学

金子勝之

ブルーベリー・自然栽培農家。柳津町砂子原地区在住。ティールームと農泊「山ねこ」を営むかわら、先人に倣うことを主眼とし、農薬や化学肥料を一切使わない農作物を栽培。この地を訪れた方々に提供し、奥会津の素晴らしさを伝えている。

伊藤たまき

やないづ町立斎藤清美術館学芸員。筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術学専攻修了。茨城県陶芸美術館、会津若松市教育委員会勤務を経て、2017年より現職。専門は日本美術史。会津出身で世界的に活躍した版画家・斎藤清の作品を主要なコレクションとする美術館で、斎藤清の多様な側面をさまざまな切り口で捉え直している。

金盛郁子

東京藝術大学美術学部特任助手「Museum Start あいうえの」プログラムオフィサー。元柳津町地域おこし協力隊。武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程デザイン専攻(工芸・染織)修了。地域おこし協力隊としてやないづ町立斎藤清美術館に勤務。「ふぶく日のシルエット展」(2018)、「やないづの家宝展」(2019)等を企画。2020年より現職。

大里正樹

福島県立博物館学芸員。専門は民俗学。2014年から現職。県内各地の地域の祭りや年中行事を中心に、郡山市・会津坂下町・昭和村などでの調査を継続中。現在はとくに柳津町の山あいの胃中(かぶちゅう)地区に伝わる藁人形行事(ニンギョウマンギョウ)の継承に向けた調査を進めている。

yanaizu
9.19(土)



撮影：金子勝之

2020年9月19日(土) 16時~18時
会場：やないづ町立斎藤清美術館(柳津町大字柳津下平乙187)
講師：金子勝之氏(ブルーベリー園・農家民宿山ねこ店主)
伊藤たまき氏(やないづ町立斎藤清美術館学芸員)
金盛郁子氏(元柳津町地域おこし協力隊)
大里正樹氏(福島県立博物館学芸員)
共催：やないづ町立斎藤清美術館

各回とも

定員：一般参加者 10名(要申込・先着順) / モニター参加者 5名(要申込・先着順)
※モニター参加者にご提出いただくレポートは、ライフミュージアムネットワーク Web サイト等にて公開・発表いたします。

参加費：無料

申込方法：電話か e-mail でお申込みください。

TEL 0242-28-6000 (福島県立博物館代表)

E-MAIL general-museum@fcs.ed.jp (福島県立博物館代表)

*参加ご希望の方の①お名前、②電話番号、③ご住所、④第1回か第2回か、⑤一般参加かモニター参加か、についてお知らせください。

※第3回～5回は昭和村・只見町・金山町で開催予定です。詳細が決まり次第、ライフミュージアムネットワーク Web サイト等にてお知らせいたします。
※新型コロナウイルス感染症の影響により、内容に変更が生じる場合があります。

[お問合せ]

ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局

ADD 〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 (福島県立博物館内)

TEL 0242-28-6000 (福島県立博物館代表)

E-MAIL general-museum@fcs.ed.jp (福島県立博物館代表)

HP https://general-museum.fcs.ed.jp/page_about/archive/life-museum-network

文化庁 令和2年度地域と共創した博物館創造活動支援事業

ライフミュージアムネットワークとは

福島県立博物館は、2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局をつとめ、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきました。その過程で浮かび上がってきた課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものでした。それらの課題は【いのち】【くらし】に集約されます。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、さまざまな団体、機関も大切にしていることです。東日本大震災後、新たに浮上ってきたミュージアムの使命。それは【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合うことと捉え、ライフミュージアムネットワークでは、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張していきます。2020年度は、これまでの活動を継続するとともに、ソーシャルインクルージョン、地域資料の利活用とネットワーク構築、地域アイデンティティの再興を軸に、ライフ(いのち・くらし)に向き合うミュージアムの実践を行います。

主催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会

協力：三島町教育委員会、三島町生活工芸館、やないづ町立斎藤清美術館、昭和村、只見町プラセンター、金山町教育委員会